

IIBC NEWSLETTER

Feb 2017
Vol.
131

特集「世界に広がる TOEIC® Program」

ETS エグゼクティブディレクター Feng Yu 博士に聞く

「TOEIC® Program は、公平で信頼性の高い英語力評価ツールです」

経済や社会のグローバル化が進行し、世界共通言語としての英語の重要性が増えています。そのような中で、日常生活やグローバルビジネスにおける活きた英語の力を測定する、世界共通のテスト TOEIC® Program は、日本だけでなく世界中で広がり、現在、世界 150 カ国、14,000 以上の団体に活用されています。今回は「世界に広がる TOEIC Program」と題して、TOEIC Program が世界に受け入れられる理由と各国の活用状況をご紹介します。

最初に、テスト開発機関である Educational Testing Service（米国 ニュージャージー州 プリンストン 以下、ETS）の TOEIC Program 担当のエグゼクティブディレクター Feng Yu 博士にお話を伺いました。

グローバル視点で開発された 信頼性の高いプログラム

— 世界中で TOEIC Program が活用され、英語テストのグローバルスタンダードとなっていますが、その理由を教えてください。

TOEIC Program は、日本でスタートしましたが、特定の国や地域を想定して作られたものではありません。1979年に開発された TOEIC® Listening & Reading Test は英語テスト業界を牽引すると目され、ビジネスや日常生活における英語力を測る世界標準となっています。グローバル化の高まりに伴い、共通のコミュニケーションツールとして、今や英語は世界で最もよく使われる言語となりました。こうした背景から、TOEIC Program のスコアは 150 カ国以上でさまざまな組織や個人に利用されています。

TOEIC Program は信頼性が高く、世界の誰でも公正かつ適正に英語能力を測ることができます。テスト問題は実社会の出来事をモデルにしているため、そのスコアは英語力を正しく測定できる信頼の高い数値といえます。これはテストの実施場所・時期にかかわらず比較可能です。

ETS は TOEIC Program のレビューをすることによって、責任を持ってクオリティーや公平性を確保しています。レビューにより、TOEIC Program の問題に含まれる素材が人を侮辱したり物議を醸したりしないこと、固定観念や偏見がないことを確認しているのです。たとえば、「半袖の服を着た女性」についての問題を考えてみてください。日本では女性が半袖を着ることは珍しくありませんが、イスラム教圏では、宗教的な観点から女性が肌を露出することは忌むこととされ、公共の場で半袖を着る習慣のない地域があります。つまり、この問題はそれらの地域の人に対して不適切ということになります。

また、異なる文化の人々の答えを統計学者に比較させ、テストの公平性の確保に努めています。私たちのテスト開発では、品質管理のために多くのチェックプロセスを設けています。こうした過程により、問題に一貫性が生まれ、高いクオリティーを保つことができます。



Dr. Feng Yu

各種試験の開発機関である Educational Testing Service (ETS) 所属。
TOEIC® Program の担当エグゼクティブ・ディレクターとして、開発に携わる。

INDEX

- P.1 特集 世界に広がる TOEIC® Program
- P.3 世界における TOEIC® Program の活用
- P.8 「TOEIC® ENGLISH CAFÉ presented by IIBC」を開催
- P.10 TOEIC® S&W 受験者に聞く
- P.11 IIBC TOPICS

設計、開発、オペレーションを通じたスコアのクオリティーで差別化

— TOEIC Programが広く受け入れられるのはなぜですか。

TOEIC Programの基本方針は、それぞれのテストの信頼性、有効性をいかに保つかです。意思決定のサポートとしてTOEIC Programのスコアを安心して使えることが、多くの企業や団体・学校で信頼されている大きな理由です。

TOEIC Programのクオリティーは、3つのポイントにまとめることができます。1つ目のポイントは、質の高いテスト設計です。実際の英語によるコミュニケーション能力を測定できるよう設計されています。また、テストスコアの持つ意味が一定であるため、全世界でスコアが比較できるようになっています。たとえば、日本の受験者は他国の受験者といつでもスコアを比較できます。さらに、継続的な調査によって、昨今の変化の激しいグローバルな職場環境にふさわしい正確なテストを作ることができます。

2つ目のポイントとして、専門家による開発プロセスが挙げられます。英語教師であっても、質の高いテスト問題を作り続けることは容易ではなく、高いレベルの問題を毎回、そして何年も続けて作るのは非常に難しいことです。しかし私たちは、どんなテスト形式でも一貫性を保ちながら、質の高い新しい問題を開発できる体制を整えています。

そして最後のポイントは私たちのオペレーションです。TOEIC Programが公正で正確なスコアを提供するためには、受験者に適切な試験環境を維持しなければなりません。ETSは全世界でテスト実施の厳格な基準を定めています。どの国でも同様ですが、日本の場合はIIBCがETSの厳しい基準を満たし、すべての受験者に対して平等かつ公平に対応しています。

時には、サービスとクオリティーの板挟みになることもあります。「スコアが出るまで時間がかかりすぎる」という意見もありますが、正確なスコアを出すためには、ある程度の時間がかかることをお客様にご理解いただければと思います。スコアの発表前に、いくつかのチェックプロセスがあります。統計学者、心理学者、テスト開発者が問題をひとつずつ確認して評価します。ETSが一貫性、妥当性、信頼性を確保するには、このようなチェックプロセスを踏む必要があるのです。

世界中からさまざまな研究分野の専門家を採用

— テスト開発を行うETSの組織について教えてください。

現在ETSでは、工学、心理学、教育、測定、コンピューターサイエンス、数学、統計学などさまざまな分野の専門家を含め、300人を超す博士号取得者が働いています。質の高いテストを提供するためには、さまざまな研究分野の知見が必要となります。

また、テスト開発には、世界のさまざまな文化を理解する人々も必要です。そのため、世界中から、多様な文化に関する知識を持った専門性の高いスタッフを採用しています。ETSの所在地はアメリカのプリンストンですが、グローバルイングリッシュや多文化に通じた全世界の専門家が、テスト開発の各ステップで仕事をしています。

TOEIC® Speaking & Writing Testsは英語コミュニケーション能力のプロダクティブな側面を評価

— 最近日本では、英語の話す力・書く力が注目され、TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC® S&W)に興味を持つ方が

増えています。受験について何かアドバイスをお願いします。

コミュニケーションとは基本的に、メッセージを送り、受け取る行為です。話すか書くかを問わず、コミュニケーションはやりとりを繰り返すのが一般的です。私たちは聞く力・読む力を使ってメッセージを受領・解釈し、話す力・書く力を使ってそのメッセージに応えます。聞く力、読む力、話す力、書く力はどれも互いに関係しており、英語力を発揮するには、4つの力すべてを備えることが必要です。プロダクティブスキル（能動的な能力＝話す力・書く力）を伸ばすには、レセプティブスキル（受動的な能力＝読む力・聞く力）を身につけなければなりませんし、その逆も同様です。

たとえば英語のEメールを受け取ったら、読む力を使ってメッセージを解釈し、書く力を使って相手が理解しやすい返事を書かなければなりません。電話に出るときは、聞く力を使って相手が言おうすることを理解し、話す力を使って適切に返答する必要があります。正確に情報を吸収し、情報を生み出す人が良いコミュニケーターなのです。

グローバル化が進む中、英語でコミュニケーションを取る機会が非常に重要になってきています。TOEIC S&Wを単なるテストとしてではなく、英語のコミュニケーションスキルを伸ばし、チャンスを切り開くためのツールとして活用してください。

TOEIC S&Wは受験者の皆さんを怖がらせるものではなく、自身の英語力の強みと弱みの両方を知って能力を伸ばすためのものであるということを理解してほしいですね。

「間違った発音やアクセントで減点されるのでは」と考える受験者もいるようですが、そんな心配は無用です。間違った単語や文法を使っても、意味が伝わっていれば大きな問題にはなりません。

ボキャブラリーについても気にしすぎないことです。聞き手がメッセージを理解できれば、単語の選択はさほど重要ではありません。難しい単語はコミュニケーションに必要ありません。シンプルな単語、シンプルな文章を使って相手が理解できるように伝えるのがベストです。

失敗して成長することで、自信が持てるようになります

— 日本の英語学習者の皆さんにメッセージをお願いします。

英語は練習しなければ上達しません。日本の皆さんはシャイで、英語が完璧でないと笑われるのではないかと思ったりする方もいます。しかし、日本で、外国人が下手な日本語で質問をしてきても誰も笑わないのと同じで、日本人がアメリカに行って、英語がうまくなくても笑われることはありません。

私も、最初にアメリカに渡った時は英語がまったく話せませんでした。職場の仲間や知り合いの学生たちが「ネイティブではないのはわかっているので心配しないで」と励ましてくれ、話すようになりました。そして、数カ月後には「ずいぶんうまくなったね」と言ってもらえて、自信を持つことができました。

誰もがゼロからスタートするのです。いきなり走り出す前にまずは歩くことです。少しずつ練習をして能力を伸ばしていくのです。能力が伸びることを実感することによって自分自身が励まされ、そしてまた練習に打ち込むことができます。そのことを理解して、これからも学習に励んでください。

— ありがとうございます。

世界におけるTOEIC® Programの活用

TOEIC® Programは、現在、世界150カ国で活用されています。今回は、その中から、韓国、インドネシア、シンガポール、台湾、コロンビア、香港のRepresentative Office*に、英語ニーズや英語教育、TOEIC® Programの活用状況についてお答えいただきました。 *Representative Office: TOEIC® Programを実施・運営している団体



韓国：YBM

国を挙げて力を入れる英語教育で重要な役割を担うTOEIC® Program

基礎データ

大韓民国 (Republic of Korea)

面積 : 約10万平方キロメートル(朝鮮半島全体の45%、日本の約4分の1)
 人口 : 約5,150万人(2015年12月現在)
 首都 : ソウル
 主な言語 : 韓国語

90年代から2000年代にかけて受験者が急増

韓国では、1982年1月に、初めてTOEIC® Listening & Reading Test(以下、TOEIC® L&R)が実施されました。それまで韓国の英語テストは、文法と読解力を測るものを中心でしたが、リスニング力を測定するテストが含まれていることで、たちまち注目を集めました。その年のうちに、サムスン電子が社員の能力評価にTOEIC L&Rを導入したのを皮切りに、主要企業も続々と導入しました。

1990年代は、政府のグローバル化政策や、企業の海外事業展開が進み、社員の英語力向上に注力する企業が増加して、「国際市場で競争するためには英語力が不可欠」という考え方が常識となり、受験者が増加しました。受験者数は、導入から11年後の1993年には10万人を達成、翌年の94年には20万人、95年には40万人と2年続けて倍増し、2002年には110万人に達しています。

そして2004年に、政府が受験制度の改革プランを発表したため、TOEIC L&Rはさらに注目を集めるようになりました。その後は、大学入試や司法試験、特許試験、公認会計士試験、公務員試験における英語テストにもTOEIC L&Rが採用されるようになりました。2015年には、多くの政府機関や国有企業も人事評価にTOEIC L&Rを導入しています。

また2006年12月にTOEIC® Speaking & Writing Tests(以下、TOEIC® S&W)が導入され、TOEIC® Testsで英語4技能のすべてを評価できるようになりました。

大学でも幅広く活用されるTOEIC® Program

現在、TOEIC Programは、韓国の約1,600の企業・団体、大学での幅広い目的に活用されています。

近年は、優れた英語力が就職の必須条件となり、全国の大学では学生の就職サポートのためにTOEIC Programを活用しています。また、多くの大学や大学院で、入学選考、単位認定、交換留学プログラム、卒業認定などに幅広く利用されています。

2015年のTOEIC L&R受験者の属性は、学生が約56%で、学生以外が約44%でした。また、受験者の80%以上が学士号以上の学位を持っています。

YBMが韓国の204の大学を対象に行った調査では、TOEIC L&Rを

入試に取り入れている大学は65校、単位認定に使っている大学も65校ありました。その他、110校が奨学金申請に、104校が交換留学プログラムに、118校が卒業認定に活用しています。

TOEIC Programを利用する企業も年々増えています。2015年にTOEIC L&RまたはTOEIC® Speaking Testを受験した企業・団体の数は514団体で、そのうち64団体が両方のテストを利用しています。

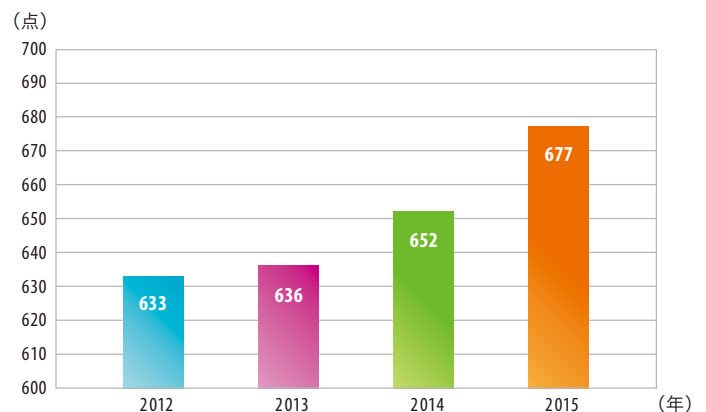
TOEIC L&RおよびTOEIC Speaking Testの利用状況(2015年)

属性	目的	学校数	備考
4年制大学	入学者選考	65	公開テストのスコアを利用
	単位認定	65	
	奨学金申請	110	
	交換留学プログラム	104	
	卒業認定	118	

属性	使用テスト名	企業・団体数	備考
主要企業・団体	TOEIC L&R	343	IPテスト*のスコアを利用
	TOEIC Speaking	171	
	TOEIC L&RとTOEIC Speaking	64	

*IPテスト (Institutional Program: 団体特別受験制度)

TOEIC L&R 平均スコアの推移 TOEIC L&R平均スコアは年々向上し、2015年は677となっています。



韓国YBMのメッセージ

「企業のグローバル化の進展、通信テクノロジーの発展によるSNSの利用者の飛躍的な増加など、もはや国境は意味を持ちません。企業は新規事業参入やマーケティングのためのコミュニケーションツールとして英語を使い、教育機関は生徒の国際競争力の強化に力を入れています。今後も、英語のコミュニケーション能力は不可欠のスキルであり、これまでと同様、TOEIC Programは韓国で最も公正で信頼でき、効果的かつ人気の高い英語のスキル指標であり続けるでしょう」



インドネシア: ITC Indonesia

大学・職業専門学校を中心にTOEIC® Programを活用

基礎データ

インドネシア共和国 (Republic of Indonesia)

面積 : 約189万平方キロメートル (日本の約5倍)
 人口 : 約2億5,500万人 (2015年)
 首都 : ジャカルタ
 主な言語 : インドネシア語

企業でも受験者数は増加傾向

インドネシアでは、1990年代初めに、TOEIC L&Rが初めて実施されました。導入当初は、受験者数は900～2100人とあまり伸びませんでした。2004年にITC IndonesiaがRepresentative Officeとなってから、IPテストに参加する学校が増え、2007年には初めて10万人を突破、2004年以降から現在まで、国内34州のうち33の州でテストが実施され、754,083人が受験しています。

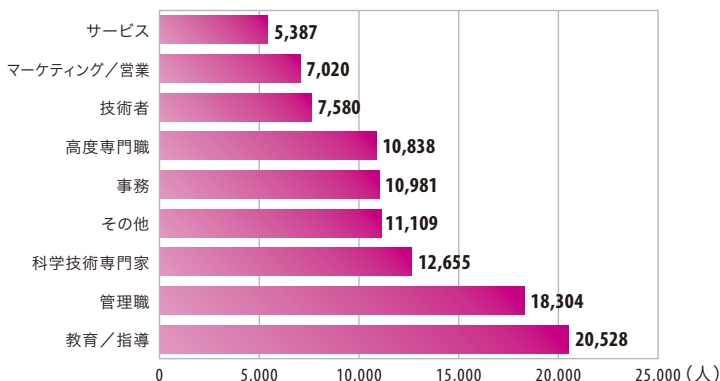
TOEIC L&R公開実施については、一般的な英語需要が低いことや経済的な背景から伸びておらず、受験者のほとんどはIPテストによるものです。2016年9月時点で、ITC Indonesiaでは、約1,200の学校、約300の職業専門学校、約600の企業にIPテストを提供しています。インドネシアでは、業務に直結する知識や技術が学べる職業専門学校に進学する人が多く、大学や専門学校においては、英語力の評価や就職対策にTOEIC L&Rが活用されています。TOEIC L&Rの受験者の多くは職業専門学校生で、そのため15～19歳の受験者が極端に多くなっているのが特徴的です。

企業においては、採用試験や昇進、海外派遣、習熟度評価にTOEIC Programが活用されています。最近、インドネシア企業は景気低迷による予算縮小が続いていますが、受験者は増加傾向にあります。

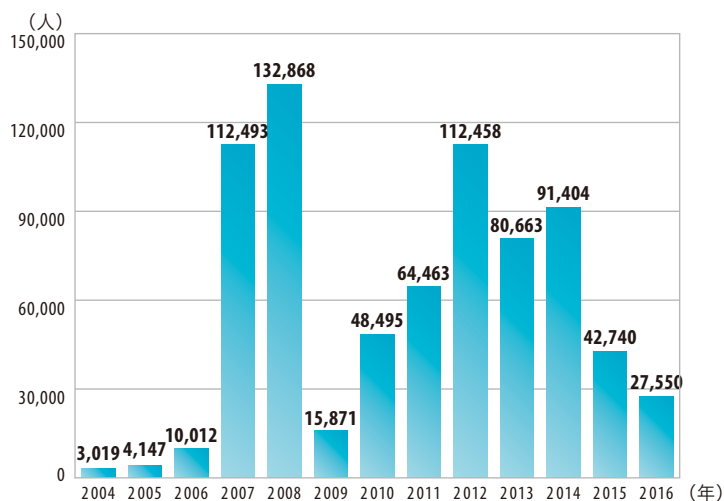
ITC Indonesiaのメッセージ

「インドネシアは、農業や漁業などの一次産業が強く、工業や観光業、サービス業が発展途上のため、残念ながら英語需要はまだ本格的なものとは言えません。ITC Indonesiaでは、政府や高等教育機関（公立校を含む）、企業へのマーケティング活動により、TOEIC Programの普及に力を入れています。同時に、英語学習者向けの研修・指導なども実施しています」

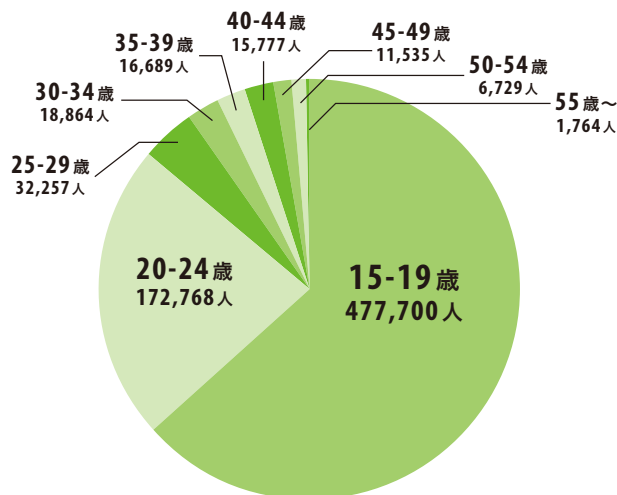
TOEIC L&R 受験者の職業別内訳



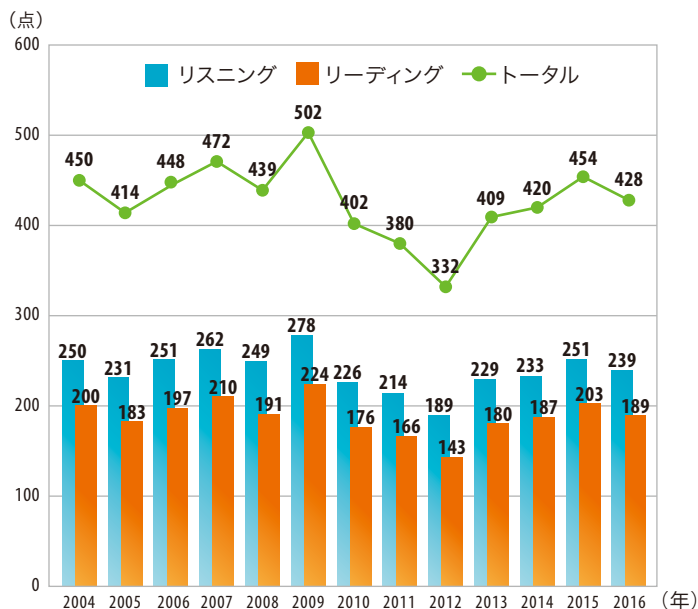
TOEIC L&R 受験者数推移



TOEIC L&R 受験者の年齢別内訳



TOEIC L&R 平均スコアの推移





シンガポール: Connectere Singapore

英語を公用語化してアジアのビジネスセンターに

基礎データ

シンガポール共和国 (Republic of Singapore)

面積 : 約719平方キロメートル (東京23区と同程度)
 人口 : 約554万人 (2015年6月)
 首都 : シンガポール
 主な言語 : 国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語

TOEIC® Programの受験者はほとんどが外国人

シンガポールでは、Connectere Singaporeが2001年3月に設立され、同年5月に初めてTOEIC L&Rが実施されました。2007年にはTOEIC Bridge® Test、2011年にはTOEIC S&Wをスタートしています。Connectere Singaporeでは、公開実施とIPテストを運営し、いずれのテストも、ConnectereのスタッフとConnectereが任命・指導した監督官や試験官によって確実に運営されています。2016年のデータでは、受験者数の割合はIPテストが60%で公開テストが40%となっています。また、受験者の80%が社会人で20%が学生となっています。

実は、これらの受験者のほとんどはシンガポール人以外の外国人です。そして、学校や大学でTOEIC Programを採用しているのも、シンガポールの学校ではなく外国人が通う学校です。シンガポールでは英語が公用語化しており、2歳くらいから英語を学び始め、高校の授業や試験も英語で行われるため、シンガポール人の英語レベルは非常に高くなっています。2012年のOECD国際学習到達度調査 (PISA) では、シンガポールは数学的リテラシーが64カ国中2位、科学的リテラシーと読解力が3位にランクされています。このテストはアジアのほとんどの国では自国語で受けますが、シンガポールは英語で受験した結果です。そのため企業では、通常、シンガポール人であれば英語が堪能だと判断しています。

グローバル企業の現地法人が人事管理にTOEIC® Programを活用

シンガポールは、政府の外国企業誘致政策や充実したインフラ、戦略的な立地条件、高い語学能力などにより、アジア太平洋地域で事業を展開しようとする企業にとって現地法人を置くのに最適な場所となっています。ビジネスがしやすい都市・国のランキングでもシンガポールは上位にランクしています。

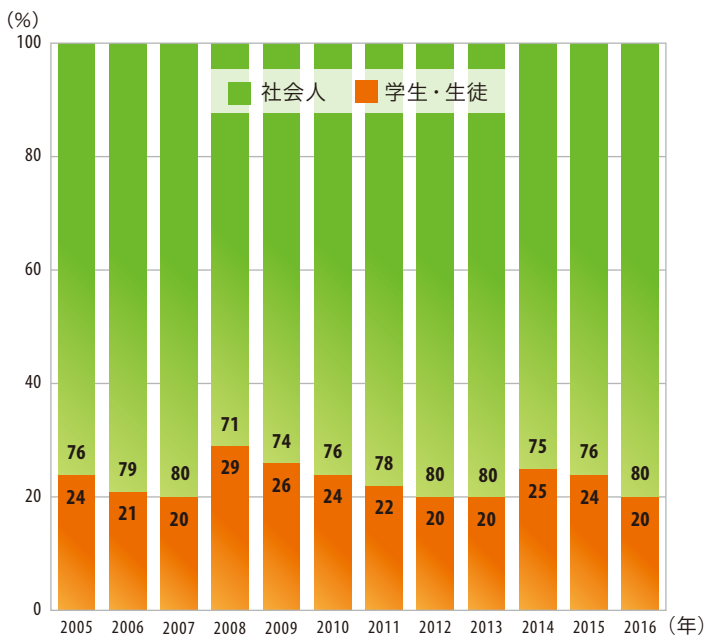
近年、シンガポールはコスト高ということで、企業は生産施設やオフィスシンガポール国外へ移す傾向にあります。高いスキルを必要とするハイエンドの製造企業は残っています。これらの企業では、高いレベルの英語力が社員に求められます。そのため、TOEIC Programを採用や昇進などの人事考課をはじめ、英語研修のレベル分けや習熟度評価、社員の英語力の把握などに幅広く活用しています。TOEIC Programは、現地で働く外国人にとって英語を習得し、自分の英語力を証明する優れたツールとなっています。

また、シンガポールの現地法人では、TOEIC L&Rスコアをさまざまな職階や業務分野のスタッフのベンチマークと定め、これを全世界のオフィスに適用しているケースもあります。このようにTOEIC Programは企業内でさまざまな目的で活用され、大きな役割を果たしています。

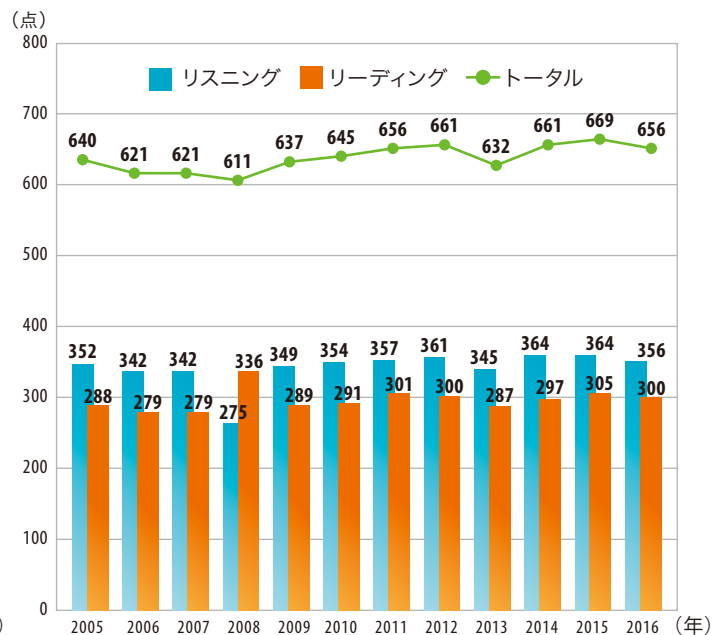
Connectere Singaporeのメッセージ

「Connectereでは、シンガポールにあるグローバル本社や現地法人に対しても、絶えずTOEIC Programの有効性をPRしてきました。シンガポールの現地法人に配置されるマネージャーは優秀な人材で、ほとんど英語が堪能です。彼らに働きかけることで、世界のオフィスでもTOEIC Programを採用してもらえる可能性があると考えています」

TOEIC L&R 受験者の属性と比率



TOEIC L&R 平均スコアの推移



注: 受験者の大多数はシンガポール人ではないため、スコアはシンガポール人の成績を反映したものではない。



台湾: Chun Shin Limited

実践的なコミュニケーション能力向上が今後の課題

基礎データ

台湾 (Taiwan)

面積 : 約3万6,000平方キロメートル (九州よりやや小さい)
 人口 : 約2,350万人 (2016年4月)
 首都 : 台北
 主な言語 : 中国語、台湾語、客家語等

教育現場で幅広く利用されるTOEIC® Program

台湾では2001年にChun Shin LimitedがRepresentative Officeとなる以前から、TOEIC L&Rが実施されてきました。2002年にTOEIC Bridge Test、2008年にTOEIC S&Wをスタートしています。2001年のTOEIC L&R受験者は約3000人でしたが、2015年は376,706人となり、100倍以上の伸びを見せています。

TOEIC Programは、企業では、採用基準や研修の効果測定、昇進の評価基準、海外派遣要員の選考などに利用されています。また、中学・高校では、志願校の適性判断や入試準備、指導のためのクラス分けのほか、指導力評価、卒業基準などにも使われています。大学においても、英語講座の進捗度測定、指導力評価、単位認定、奨学生の選考、卒業審査と幅広く活用されています。

求められる実践的な英語教育

台湾では、英語は小学校3年から大学1年まで必須科目で、全国約160の大学のうち120校には英語関連の学部があり、毎年20,000人以上の英語専攻の学生が社会に送り出されます。しかしながら、台湾全体のTOEIC L&Rの平均スコアは532点で、CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) ではA2~B1*のレベルにとどまっています。そのため、英語が堪能な人材が不足しているという企業の声も多く、台湾の学校での英語教育は企業のニーズを満たしているとは言えないのが現状です。その大きな要因として、台湾の英語教育が、コミュニケーションにおける表現力やプレゼンテーションや討論などにおける発信力などの英語の実践的なトレーニングよりも、文法を重視していることがあります。その結果、就職する学生の多くは、リスニング、リーディングなどの

受動能力は高いものの、英語でタイムリーに反応する能力が足りません。

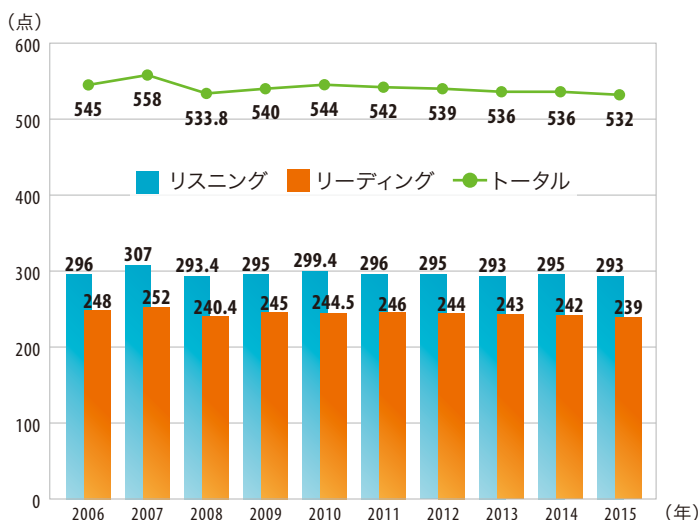
また、台湾の職場は規制や手続きの壁があり、海外からの専門家が長期的にキャリアを積むのが難しい環境です。これが台湾の職場のグローバル化を阻む、目に見えない要因となっています。

現在、台湾ではグローバル化のために積極的な施策を展開しています。たとえば、大学の入学および卒業時の英語力の基準を定めたり、英語教育の内容や方法を一から見直すなどの改革に着手しています。

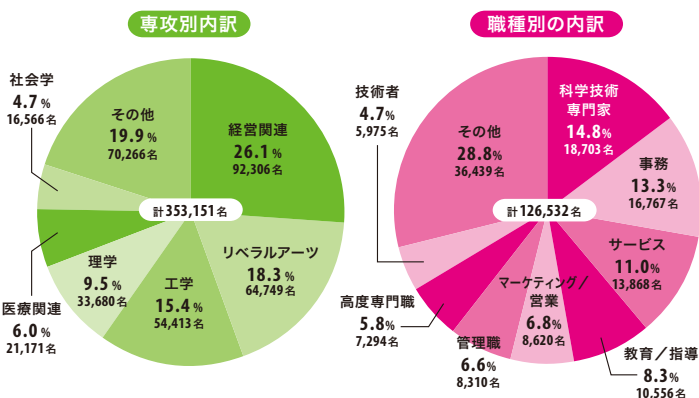
*A2: 日常のことがらについて、簡単なやりとりができるレベル

B1: 日常生活で出る話題について理解し、興味あるトピックについて簡単な文章を作ることができるレベル

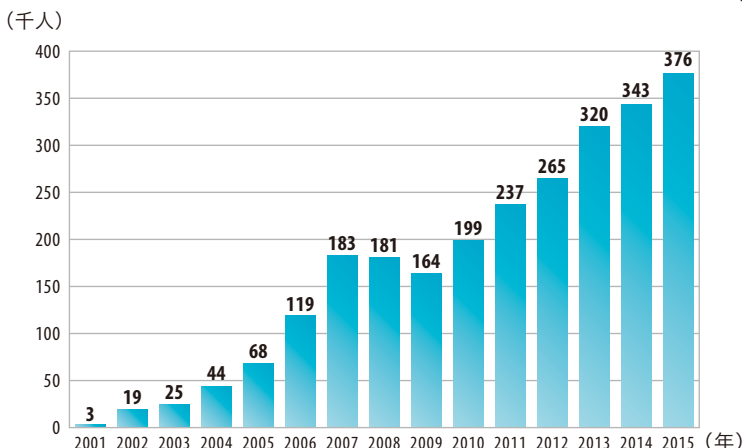
TOEIC L&R 平均スコアの推移



TOEIC L&R 受験者の属性



TOEIC L&R 受験者数推移



台湾 Chun Shin Limited のメッセージ

「ETSは、研究成果や知識を集約し、公正かつ効果的なTOEIC Programの評価、調査などの関連サービスの提供で、常に教育の質の向上に寄与してきました。当社もこれに賛同し、TOEIC Programの活用尽力していきたいと考えています。さまざまな場面においてTOEIC Programによる適正な能力評価を通じて、英語学習をサポートし、その成果としての語学力が多くの方々の夢の実現に貢献していることをご理解いただければ幸いです」



コロンビア: IPLAED Corporation / IOW

英語教育重視の中で、重要性が増すTOEIC® Program

基礎データ

コロンビア共和国 (Republic of Colombia)

面積 : 約113万9,000平方キロメートル (日本の約3倍)
 人口 : 約4,779万人 (2014年)
 首都 : ボゴタ
 主な言語 : スペイン語

この10年でTOEIC® Programのブランドが浸透

IPLAED Corporationは2004年にTOEIC L&Rを導入してから、コロンビアおよびエクアドルにおいてTOEIC Programを運営しています。導入当初、これらの地域ではTOEIC Programは知られていませんでしたが、グループの一員である姉妹会社のIOWとともに、TOEIC Programの普及に努め、そのブランドが浸透していきました。現在はIPテストの普及に力を入れており、184の企業・学校に採用されています。そのうち111の企業、73の大学や学校が採用しています。

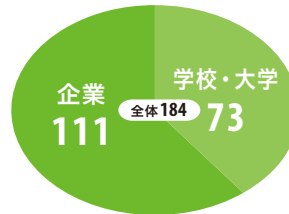
2016年の受験者は25,000人を超える見込みとなっています (TOEFL Junior®なども含む)。受験者の性別は、女性が35%、男性が65%と男性が多くなっています。職業や年齢はさまざまですが、TOEIC L&Rは中間管理職層、TOEIC S&Wは経営者や幹部層、TOEIC Bridge Testは工場労働者層というのが主な傾向です。25,000人のうち70%はTOEIC L&Rのみの受験者で、TOEIC L&Rの平均スコアは500~540点です。

企業におけるTOEIC Programは70%が昇進などの人事考課、30%が採用の判断材料に利用されています。また、TOEIC Programは企業が専門的な英語力を評価する際の「職業適性基準」に指定されています。学校では、語学学校で英語力の測定に用いられるほか、大学では卒業資格テストに利用され、就職に必要な条件として重要な位置づけになっています。

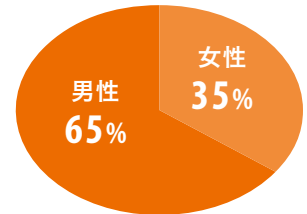
かつては、政府当局が求める英語教育レベルに明確な基準はありませんでした。現在は、さまざまな省庁において努力目標として、専門職に就く者はCEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) で最低でもB2*を目指すべきだと定めています。特に教育者や英語教師の場合は、少なくともB2レベルが義務づけられています。これは大学の英語教育や語学学校において好影響を及ぼしています。

*B2: 自分の専門分野に関する複雑な内容を理解し、明確かつ詳細に自分の意見を表現できるレベル

IPテストの構成



受験者の性別



コロンビアIPLAED Corporationのメッセージ

「IPLAED Corporationはコロンビアおよびエクアドル市場で12年間、ETSのRepresentative Officeを務めています。今後も現在と同様、コロンビアおよびエクアドル内のあらゆる都市をターゲットとして、TOEIC Programのサービスを拡大していきます。市場全体の規模が大きいこともあり、我々が費用を投入して、大学などの構内にインハウスのTest Centerを設置して運営する場合があります。こうすることで、TOEIC L&Rだけでなく、TOEIC S&Wにおいてもフレキシブルなサービスを提供できるようになります。我々はこれまで受験者の数にかかわらず、48~72時間で迅速にスコアを出すサービスを売りにしてきました。これはライバル各社の追随を許さないサービスとして好評をいただいています」



香港: Smart Education Co. Ltd.

香港とマカオ、中国南部にTOEIC® Programを展開

基礎データ

香港 (Hong Kong)

面積 : 約1,100平方キロメートル (東京都の約半分)
 人口 : 約729万人 (2015年7月)
 主な言語 : 広東語、中国語 (北京語)、英語 ほか

法人顧客や学校と協力して英語力修得を支援

Smart Education Co. Ltd.は10年以上前に設立され、質の高い革新的なEラーニングおよび評価ツールを中華圏で提供するトップ企業です。2011年7月から、TOEIC Programの香港とマカオにおける公式代理店となりました。2012年には、ETSアセスメントの販促活動に対してETSのEPN Global Recognition賞を受賞しました。

また、法人顧客と緊密に協力しながら、採用、昇進、海外派遣、研修などにおける社員のグローバルベンチマークとしてTOEIC Program

の有効活用を推進しています。大学や専門学校、中等学校とも協力し、学生や生徒がグローバル経済で成功するために必要な英語力の修得を幅広く支援しています。また香港、マカオ、中国のさまざまな大学で講演会を開催しています。



香港Smart Education Co. Ltdのメッセージ

「2014年には、中国南部のTOEIC Representative Officeに任命され、8つの省 (広東、福建、江西、安徽、湖南、湖北、雲南、海南) でTOEIC Programの普及を行っています。優れた業績を達成し続けた結果、中国南部でのTOEIC Programへの貢献に対して、2015年のETS Preferred Network Bronze Club Awardを受賞しました」

J-WAVE 人気ナビゲーターやネイティブスピーカーと一緒に楽しみながら英語で話せる「TOEIC® ENGLISH CAFÉ presented by IIBC」を開催



六本木ヒルズ ヒルズカフェ / スペースに期間限定で「TOEIC ENGLISH CAFÉ presented by IIBC」が出現

リラックスした雰囲気英語を話すことができるカフェ

2016年11月8日(火)～10日(木)、六本木ヒルズ ヒルズカフェ / スペースに「TOEIC® ENGLISH CAFÉ presented by IIBC」を期間限定でオープンしました。



「TOEIC ENGLISH CAFÉ presented by IIBC」内装

英語での発信力を身につけるには、積極的に英語でコミュニケーションすることが大切です。英語を学習する方々からは「英語を使う場がなかなか無い」、「英語を話す時に緊張する」といった悩みが多く聞かれます。そのような声に応じて企画した「TOEIC® ENGLISH CAFÉ presented by IIBC」は、2016年2月に続き2回目の開催となりました。コンセプトは「Enjoy Communication」で、J-WAVEの人気ナビゲーターやネイティブスピーカーと英語で話すイベントなどがあり、来場者はリラックスした雰囲気の中で、楽しみながら英語で話すことができます。

イベント実施時間以外は通常のカフェとして営業。カフェラテやパンケーキには、ラテアートや焼印で、英語学習をされる方への応援メッセージを添え、学習のモチベーションアップにつながる演出を施しました。



①② パンケーキとカフェラテは、英語を学ぶ方への応援メッセージ入り
③ 来場者が英語で願いごとを書いて飾ることができる「Wishing Tree」

J-WAVEの人気ナビゲーターが英語学習のコツを伝授

初日に開催されたオープニングイベントでは、「SPEAK UP NIGHTS」に登場するJ-WAVEの人気ナビゲーター、レイチェル・チャンさん（「SMILE ON SUNDAY」日9:00～13:00）、マッシューさん（「ZAPPA」月・火5:00～6:00）、サツシャさん（「BEAT PLANET」月～木11:30～14:00）の3名にご登壇いただき、それぞれの英語に対する想いや英語でのコミュニケーションのコツなどについて体験談を交えて語っていただきました。

「いかに自分が英語と接する機会を増やせるかが重要」と語るのは、アメリカ生まれで、大学までを日本とアメリカで過ごした経験を持つマッシューさん。「映画やJ-WAVEなど、興味あ



オープニングイベントのミニトーク。
左からレイチェル・チャンさん、マッシューさん、サツシャさん

ることで英語に触れる機会を増やし、それを英語で話してみることもおすすめ」とアドバイスをいただきました。

「躊躇せずに行動すること」と語るのは、アメリカでの学生時代やロンドンでの生活など豊富な海外経験を持つレイチェルさん。「とにかく英語で話してみる、勉強してみる、TOEIC® Testsを受けてみるなど、行動して初めてわかることがあるので、まずは楽しみながら、行動してみてもいい。また、日本人の謙虚な気持ちは美しいが、外国では怪訝な顔をされることもあるので、積極的に発言するなど国際感覚も身に付けてほしい」と語っていました。

ドイツ語・英語・日本語の3カ国語を自在に操るナビゲーターのサツシャさんも、「昔はなかなか英語に触れる機会がありませんでしたが、今は映画やインターネットなど、学ぶチャンスはそこら中に転がっているので、あとは拾い上げるだけです。応援しています」と英語を学んでいる方々にエールを送っていました。

J-WAVEとのコラボレーションイベント「SPEAK UP NIGHTS」

3人のナビゲーターには、J-WAVEとのコラボレーションイベント「SPEAK UP NIGHTS」を1日ずつ担当していただきました。8日担当のレイチェルさんは「夢・情熱」、9日のマッシューさんは「旅」、10日のサツシャさんは「音楽」と、各ナビゲーターが設定したテーマに沿ってイベントを進行。ナビゲーターのトークの後、テーマ



8日の「SPEAK UP NIGHTS」でトークをするレイチェルさん

に合わせて同じテーブルの人と英語で語り合うセッションがありました。初対面の参加者同士でしたが、積極的に英語で話し、お互いの話に熱心に耳を傾けていました。そして、最後は

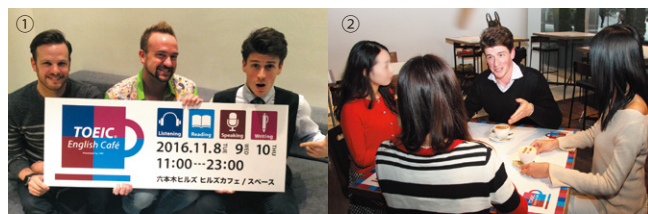


サッシャさんがリードする、本番さながらの番組体験

「SPEAK UP NIGHTS」の人気コーナーともいえるJ-WAVEの番組体験です。ナビゲーターの番組にゲスト出演するという設定で、手を挙げた参加者がステージに上がり、本番さながらのナビゲーターのリードにしたがって英語で自己紹介をしたり、曲紹介をしていただきました。

ネイティブと楽しく会話を楽しむ 「フリートーキングテーブル」

期間中は、テレビ出演などで多彩な活躍をされているネイティブスピーカーと少人数のグループでコミュニケーションできる「フリートーキングテーブル」を毎日4回、30分ごとの入れ替え制で開催しました。3人のネイティブスピーカーと参加者は、話題豊富でユーモアにあふれた彼らと英語でのコミュニケーションを楽しんでいました。

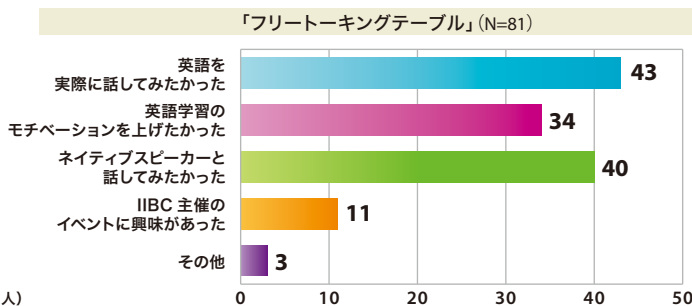
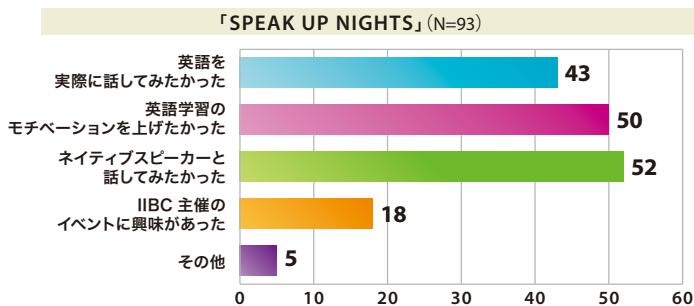


①(左から)フリートーキングテーブルに参加していただいた、ネルソンさん、ジェイソンさん、カイルさん ②「フリートーキングテーブル」ではリラックスして英語でのコミュニケーションを楽しんでいただきました

イベント参加で、さらに 「英語で話す」ことへの関心が高まる

「フリートーキングテーブル」と「SPEAK UP NIGHTS」に参加した方々のアンケートでは、それぞれのイベントの参加理由として、多くの方が「英語を実際に話してみたかった」、「英語学習のモチベーションを上げたかった」、「ネイティブスピーカーと話してみたかった」を挙げていました。また、「英語で『聞く (Listening)』『読む (Reading)』『話す (Speaking)』『書く (Writing)』の中でどのスキルの測定に最も興味がありますか?」という質問には、参加したほとんどの人が、「Speaking」を挙げており、英語で話すことへの関心の強さがうかがえました。そして、ほとんどの人から、イベントにより「英語で話すことへの関心が高まった」との回答をいただきました。IIBCは今後も「TOEIC® ENGLISH CAFÉ」をはじめとした様々な活動を通して、英語を学習する皆様をサポートしていきたいと考えております。

イベントに参加した理由は何ですか? (複数選択可能)



参加者の声

SPEAK UP NIGHTS

- J-WAVEナビゲーターの方の進行がとても上手で、最高でした。
- 参加型のイベントなのでドキドキワクワクできました。自分よりスキルの高い人の英語を聞いて、勉強になったし、モチベーション向上にもつながりました。
- J-WAVEナビゲーターと話ができてよかったです。
- 英語を話すのに慣れていなくて緊張したけど、もっと話せるようになりたいと思えました。同じテーブルやステージに上がった人たちの話を聞いて刺激を受けました。
- カフェと音楽、英語に楽しく触れることができました。
- 楽しかったです。こういうカフェが期間限定でなく、ずっとあったらいいなと思いました。
- 参加者の素晴らしい英語のMCを聞いて、私も勉強しなくてはと思いました。
- 普段は1人で英語を勉強していますが、今日は同じ目的を持った人と触れることができ、貴重な機会となりました。

フリートーキングテーブル

- とても緊張していたけど、リラックスして楽しく話すことができました。
- ネイティブスピーカーの方が話を引き出してくれ、良い英語のキャッチボールができました。
- 同じ志を持った方と一緒に話せたのがよかったです。
- 同席の方も皆さんユニークなバックグラウンドがあり、英語学習のモチベーションが高く、良い刺激になりました。
- ネイティブの方が恋バナも交えながら、気さくに話してくれました。英語につまってしまうけど、ちゃんと聞いてくれました。
- リラックスした雰囲気の中で英会話をたくさん楽しめました。
- あきない話題と楽しいおしゃべりで、話せないながら楽しめ、あっという間に終わってしまう程でした。
- 自分の英語力に危機感を持つことができました。
- 話がとてもおもしろく、グループで話すのも楽しく、英語学習のモチベーションも上がりました。

あなたにとって TOEIC® Speaking & Writing Tests とは？

ビジネスのグローバル化が進み、仕事で英語を使うシーンが増え、特に、プレゼンテーションや会議、商談、電話、Eメールなど、英語で話す力・書く力の重要性が高まっています。また実際の仕事で既に英語を使っているため、自分の現在の英語能力（話す力、書く力）を客観的に把握してみたいとTOEIC® Speaking & Writing Tests（以下、TOEIC® S&W）を受験する方も増えています。今回は、TOEIC® Listening & Reading Test（以下、TOEIC® L&R）を受験されている方々の中から、TOEIC S&Wを受験された女性5名に、受験のきっかけとテストの感想について伺いました。

注：Speaking（S）、Writing（W）のスコアは0～200点の10点刻み



英語を話すマインドに大きな変化が

高橋 瞳さん 総合商社勤務

TOEIC Tests Score L&R 790 S 140 W 170

商社に勤務し、英語を使って海外とメールや電話でやりとりをする機会が増えたため、必要に迫られて英語学習を始めました。TOEIC S&Wを受験し、テストに向けて準備をすることで、英語を話す姿勢が変わりました。今では、日常生活でも困っている外国の方に積極的に話しかけるようになるなど、自分の変化に驚いています。これからも定期的に受験することで、英語発信力向上とモチベーションUPに役立てていきたいと思っています。



自分の英語発信力を正確に把握できる

奥津 僚子さん メーカー勤務

TOEIC Tests Score L&R 840 S 130 W 140

仕事で英語を必要としています。自由に使いこなせるレベルではないので、まずは今の英語力を知るために受験してみることにしました。受けてみて感じたのは、実際のコミュニケーションシーンに近い問題だということでした。仕事にも役立ちそうです。今後は、話す力と書く力がより重要になってくると思っているので、自分の英語発信力を把握することで、勉強に役立てていきたいと思っています。



実践に近い問題形式で、英語を使って働く自分をイメージ

菊島 舞さん IT企業勤務

TOEIC Tests Score L&R 735 S 130 W 140

初回受験は、就職前でした。テストはとても楽しかったのですが、思い通りに解答できない問題もあり、その悔しい気持ちで、「次は答えられるようになりたい」というやる気につながりました。実践的な内容だったので、「こんな風に英語を使って働きたい」と、進む方向性がイメージできたことも収穫でした。実際の採用面接でも、英語の話す力をスコアでアピールできて、役立ちました。これから就職活動に臨む方にもおすすめです。



TOEIC L&RとTOEIC S&Wで英語の総合力を測る

西山 優里子さん 漫画家

TOEIC Tests Score L&R 890 S 130 W 130

実際の会話では、短い時間でテンポよく言葉を返さなければなりません。テストの時間設定も、実際のコミュニケーションに近く、良い練習になりました。ただ、自分の意見をまとめるのに苦労し、目標にしていたスコアには届きませんでした。受験を通じ、普段から自分の意見をまとめることを意識するようになりました。今後も、定期的にTOEIC L&RとTOEIC S&Wを受験し、英語の総合力を測っていきたくて考えています。



コミュニケーションに必要な伝える力を測るテスト

鈴川 めぐみさん メーカー勤務

TOEIC Tests Score L&R 900 S 130

TOEIC® Speaking Test は、テスト自体がアウトプット場で、英語を話すことが楽しかったです。受験前は、正しい発音を求められるものと思っていましたが、発音が悪くても、単語に多少の間違いがあっても、意味が伝わっていれば大丈夫という採点基準を聞き、これまでのテストとの大きな違いを感じました。これこそがまさに、コミュニケーションの能力を測ることができるテストだと思います。

※TOEIC® Speaking Testのみ受験されました



IIBC TOPICS

2016年度 TOEIC® セミナーを開催

「社員の意欲と英語力向上を目指す取り組み ～戦略的な TOEIC® Program の活用～」

2016年10月26日（水）、東京 日本橋三井ホールにて、2016年度 TOEIC®セミナーを企業・団体の人事担当者向けに開催しました。

本セミナーでは、アステラス製薬株式会社 開発本部 開発推進部 マネージャー 松川うたね様、三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社 教育研修部 マネージャー 内藤陽子様、SOMPOホールディングス株式会社 執行役員 人事部長 笠井聡様の3名にご登壇いただき、人材育成や研修制度における TOEIC® Program の活用事例を発表いただきました。

各社とも、事業の急速なグローバル化に対応するため、英語力向上を目指す人材育成プログラムに取り組む中で、英語学習のモチベーションをどのように向上させていくか、レベルの異なる社員にどのように接すべきか、さらに目標設定と効果測定をどのように行っていくかなどの課題に、独自の工夫で意欲的に対処された施策をご紹介いただきました。

いずれも、試行錯誤しながら実践的な研修、人材育成プログラムを実施されている貴重な事例で、講演後、参加者の皆様に行った

アンケートでは、いずれの講演についても約8割の方が「参考になった」「やや参考になった」と回答されました。また、「英語に興味のない社員に対する動機づけの工夫が参考になった」、「研修担当者としてやるべきこと、自社で足りないことが具体的になった」、「うまくいかなかったことの中に成功のヒントが見られた」といった声を頂戴いたしました。

TOEICセミナーでは、企業の人事担当者の方にお役立ていただけるテーマを、今後も取り上げてまいります。



今回も多くの皆様にご参加いただきました

第8回 IIBC エッセイコンテスト表彰式を開催

今年のテーマは「私を変えた身近な異文化体験」

2016年11月12日（土）、第8回 IIBC エッセイコンテスト表彰式をホテルニューオータニにて開催しました。

2016年度は、本選は119校 172作品のご応募をいただき、最優秀賞をはじめとした8名の方の受賞が決定しました。また、2014年より一般社団法人日米協会にご協力いただいて設置した日米協会会長賞には3名の方が選ばれました。さらに、1校で20作品以上応募した全参加校を表彰する奨励賞には、28校 1,090作品のご応募をいただきました。

テーマは「私を変えた身近な異文化体験」。将来グローバルな活躍が期待される高校生の皆さんに、コミュニケーションのギャップを乗り越え、異なる文化を持つ人々とわかり合うことの大切さを見つめ、考える機会を持ってもらうことを狙っています。

応募作品は、多様な文化や価値観に触れた体験を基にした作品が多く見られました。最優秀賞に輝いた渋谷教育学園幕張高等学校 島田采佳さんの作品「Raghad's Hijab」は、パレスチナ人の友人が身につけていた“ヒジャブ*”を題材にした作品で、表彰された島田さんは、「このエッセイに取り組むことによって、自分の学んだことや感じたこと

をより明確に、より深く思い返すことができ、成長することができました」と語っていました。

表彰式の後、親睦会が開催されました。表彰式では緊張気味だった受賞者の表情もほぐれ、審査員や祝福に駆けつけた歴代の受賞者とともに、これからの夢や目標について語り合っていました。既に大学生や社会人となった歴代受賞者からは、英語の勉強法や進路についてアドバイスをもらうなど、有意義な時間となっていたようです。これからも IIBC エッセイコンテストの実施を通じ、高校生の皆様の活躍をサポートしてまいります。

*女性の頭や身体を覆うペール



参加者全員で記念撮影。最前列は今回の受賞者の皆様



右：最優秀賞の渋谷教育学園幕張高等学校 島田采佳さん
左：審査委員長 IIBC 専務理事 斎藤真

TOEIC® Speaking & Writing Testsを活用した

I「実務に生きる英語表現力の磨き方」、
II「発信力に自信がつくワークショップ」2タイプのイベントを開催

近年、ビジネスシーンで英語を使う機会が多くなり、自分の意志や考えを英語で「話す」「書く」力を高めたいと思っている人が増えています。そのようなビジネスパーソンの英語発信力向上を応援するため、2016年12月、2種類のワークショップを開催しました。

I 実務に生きる英語表現力の磨き方ワークショップ

大切なのは、英語発信力の磨き方を身につけること

1つは、12月1日(木)と8日(木)にベルサール東京日本橋において開催した、「実務に生きる『英語表現力』の磨き方」と題したワークショップです。本ワークショップは「じっくりと英語の学習方法を習得したい」という声に応えたもので、参加者のTOEIC® Listening & Reading Testのスコアのレベルごとに2日間に分けて実施されました。



ベアワークにも積極的に取り組んでいました。



平日夜にもかかわらず、大勢の方が参加されました。

ワークショップでは、講師に東京海洋大学特任准教授でEducational Testing Service 認定TOEIC® Propell Workshop Instructorの横川綾子先生をお迎えし、英語発信力を高める学習方法についてTOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC® S&W)を活用しながら英語発信力を向上させる方法を教えていただきました。

横川先生は、まず、英語の流儀として、「①英語の世界は『話し手・書き手責任』、②主張と根拠はセットで、③テーマからコメントへ展開」の3点を挙げ、「聞き手、読み手の理解への手間を極力減らす」ことを強調されたうえで、TOEIC S&Wの問題に解答する際に気をつけたいポイントや効果的な学習サイクルなどを具体的に説明されました。

続く参加型アクティビティでは、参加者が隣の席の人とベアになって「話す」「書く」のさまざまなタスクに取り組みました。英語でお互いの共通点を見つけたり、TOEIC S&Wの解答例についてディスカッションするなど、参加者は楽しみながらタスクに取り組み、会場は大いに盛り上がりました。

参加者アンケートでは、約9割の方が「『話す』『書く』の英語学習への意欲が高まった」、また、「TOEIC S&Wへの興味がわいた」と回答いただきました。授業後、横川先生は「このワークショップをきっかけに、英語の発信力とは何か、それをどのように伸ばしていくかを、それぞれがお考えくだされば嬉しいです」と語っていました。

II 発信力に自信がつくワークショップ

英語に対して構えないことが発信力に自信をつけるコツ

もう1つは、12月12日(月)に虎ノ門ヒルズフォーラムにおいて開催した「発信力に自信がつくワークショップ」です。

英語を学んでいる方の中には、「自分の意図が正しく伝わっているかどうか不安」、「完璧な文法や発音でないのが恥ずかしい」など、自信がなくて英語が話せない方もいます。ワークショップでは、ゲストとして英会話イーオンの箱田勝良先生と3名のネイティブスピーカーをお招きし、英語でコミュニケーションを図る際におさえておくべきポイントをご紹介します。

オープニングのパネルディスカッションでは、ゲストからの「英語を完璧に話そうとせずに気持ちを楽に持って」、「自分が得意な日本の話などを会話のネタにする」などのアドバイスに、参加者の皆さんは大きくうなずいていました。さらに、メインプログラムであるWorking Sessionでは、各テーブルにゲストとIIBCのスタッフが参加し、参加者と英会話を楽しんだり、英語での学習について質問する時間が設けられました。ネイティブスピーカーとは英語で、音楽や食べ物、日本の習慣などのテーマについて、リラックスした雰囲気の中で会話を楽しんでいる様子が伺え、また、箱田先生には英語力向上にむけた具体的な学習方法など、参加者が日ごろ感じている疑問を次々に質問していました。

参加者アンケートでは、「英語を発信することに自信ができましたか」という質問に対して約9割の方に「自信がついた」との回答をいただきました。そのほか「英語学習に前向きな人々と交流ができて、とてもモチベーションが上がった」、「このような楽しいワークショップは、英語学習のモチベーションを保つのに役立つ」との声をいただきました。



ゲストによる英語力向上の効果的な勉強法についての楽しいトーク。



テーブルごとに英会話を楽しんだり英語学習の相談をする参加者の皆さん。

今後も、IIBCでは、英語学習者をサポートするイベントを企画してまいりますので、ご期待ください。

IIBC 世界は、あなたでつながる。

一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会
The Institute for International Business Communication
TOEIC®公式サイト <http://www.toeic.or.jp>

【お問い合わせ】

東京 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL. 03-5521-5901
名古屋事業所 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル TEL. 052-220-0282
大阪事業所 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル TEL. 06-6258-0222
【報道関係お問い合わせ】
広報室 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル TEL. 03-3581-4761